

馬よ

鈴木 漠

ともかくも馬を走らせたい

駆けさせねばならぬ玲瓏^{れいろう}たる馬

または謹厳な木の馬を

みんなで藁^{わら}の束になつて

わらわりわるわるわれ廻れ 笑う馬

夜の円蓋を支える柱のまわり

その盤上の戯^{たむ}れのなかにわれわれの

幻こそは醸^{かも}されるかもしれぬ

馬よ迂回せよ

まだまだ まだまだ曼陀羅の

婀娜^{あだ}たる世界に到るのは

汝 白茶けた玩具の馬

いずこより来り^{きた} いずこへか去る

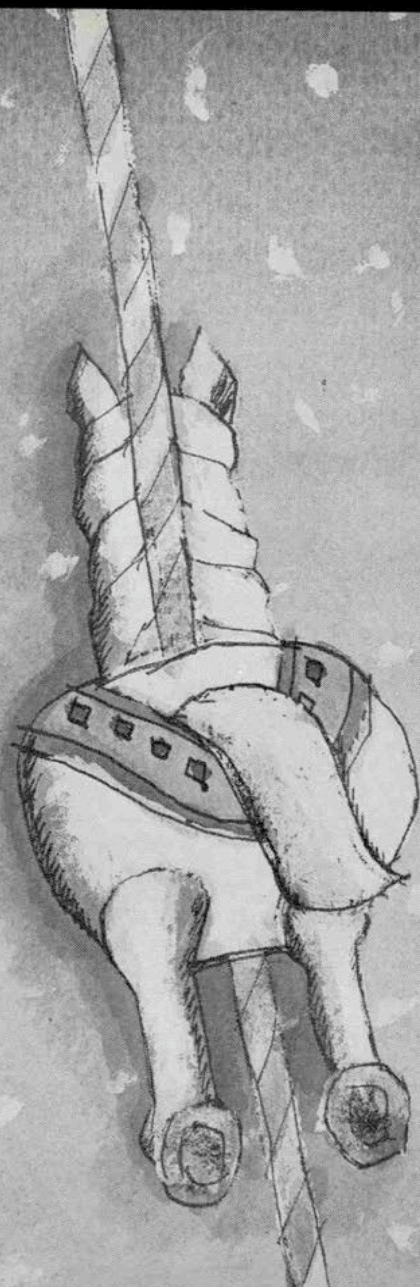
しらしら明るむありあけの

天を支える柱のめぐり

しらしりしるしるしれはしれ

走りされ無名の馬よ

背に不滅の騎士をのせて!



ラッシュ・駐車場B2

三宅 武

追いつかれそうで背骨が痛くなる
バックミラーをいくどものぞく
汗が冷たく流れる

遮断機がやつとあがる

無表情を装ってアクセルをふみ込む

へ待て／＼のかわりに

うやうやしく声を出す人形

いく万トンを支えるコンクリートの列柱

靴音……二人だ

こぼれたオイルに足をすべらせる

肘をつく——立ちあがろうとする

柱のかげから

いきなりヘッドライトが向ってくる

体を転がして避ける

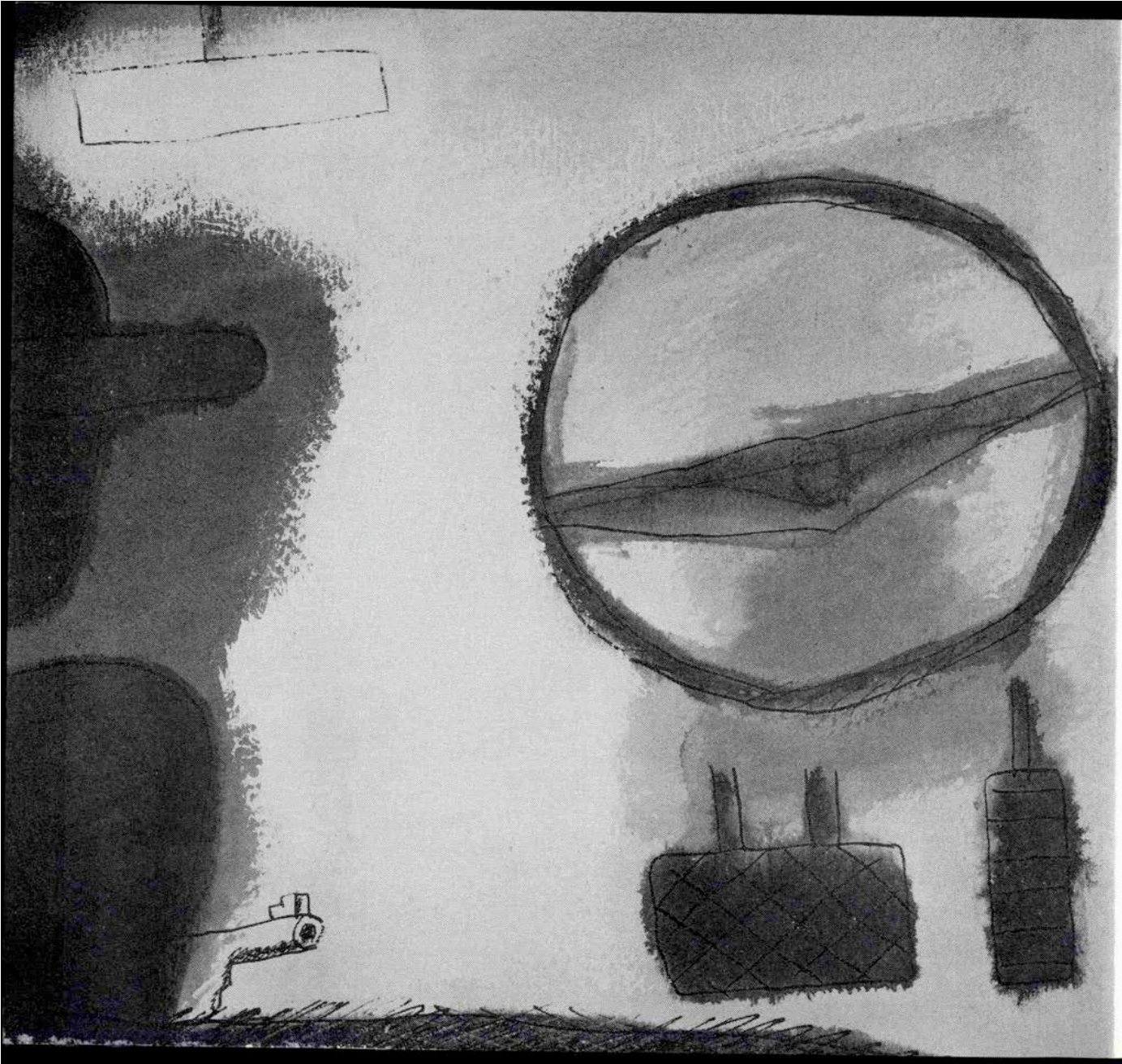
空転するタイヤが焦げる

かすかな煙が残る

全ての音がとだえる

銃声の連射がくるまで

あと何秒あるか



禁野橋の畔

伊勢田 史郎

おおきな柳の木の下で

女のひとが まっしろい手をさしのべていた

しだれた枝たちの葉が ざわめいていた

月のいろは銀

口笛の曲はかるやかに 去っていく

ながい ながい ひとつの影

おおきな柳の木の梢に

蛇をくわえて 白いフクロウが見おろしていた

水の面にさんざめくひかりの泡たち につ

つまれて

猫の川流れがくだっていく

—— おかあさん! ——

どこかで 子供の悲鳴が 閃いた

おおきな柳の枝たちの葉がおどっていた

風が

そのひとを鋼いろの塑像にかえた



褐色の実

中村 隆

白い花が醜く萎れると

十数本の青い花筒が

いつせいにふくらみはじめ

二つの季節になめされ

熱い風に揺さぶられながら

地上三十糎ほどのところで

捨てられた子猫の突き出た腹のような

あられもない姿で

どんどん太っていく

——ブドウなの

幼児が母親にたずねる

——トマトだね

通りすがりの老人がひとりであななく

誰も知らない夏の忘れ形見の

煮ても焼いても喰えぬこの艶やかな

褐色の実は一体なんだろう

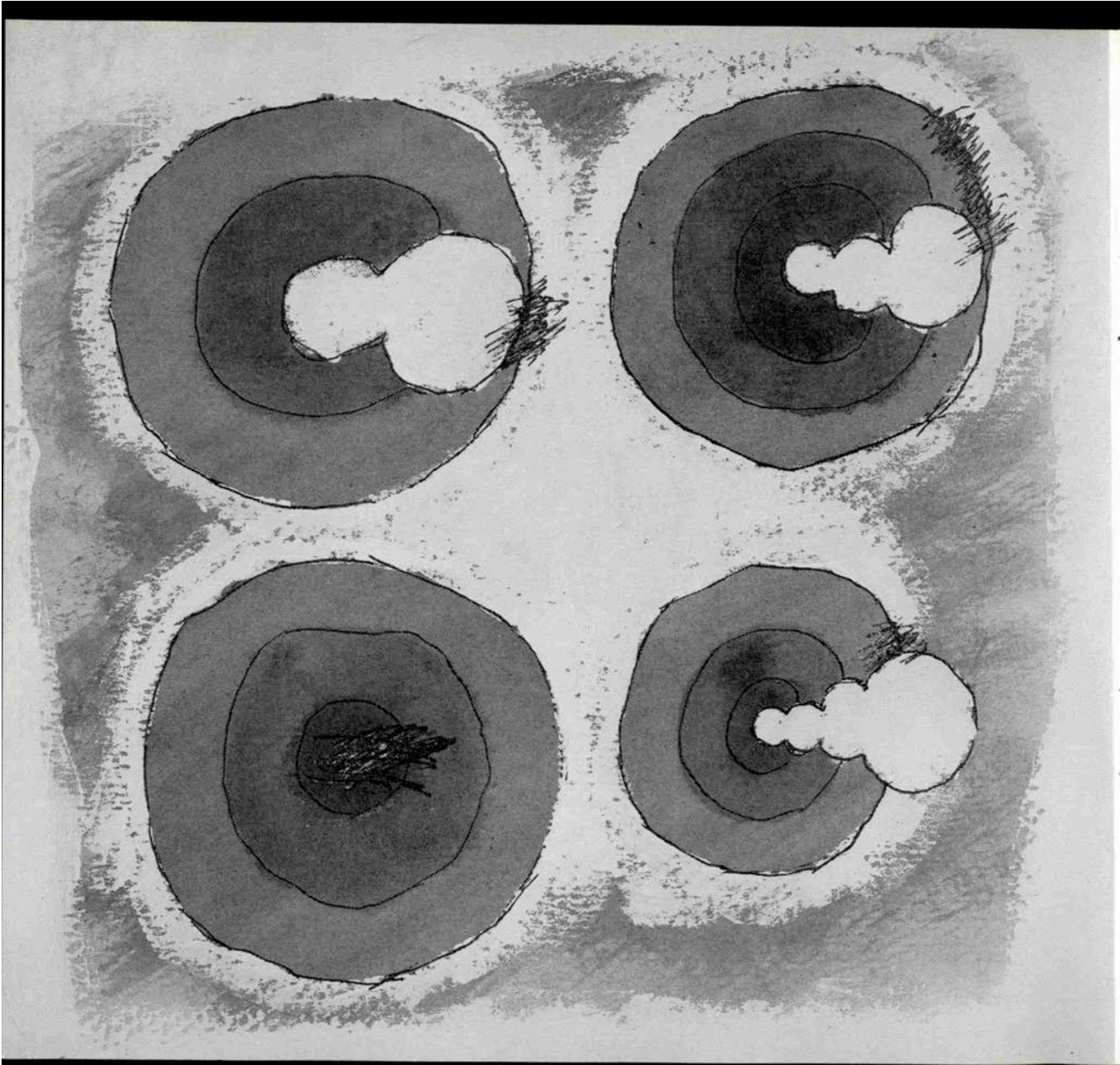
三十糎ほど地上に墜ちて

根掘り葉掘り出生を問うには

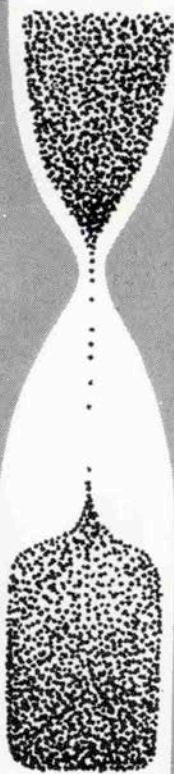
少し間がある

寒冷前線がゆつくり南下して

こわい雨を降らせるまでに



★キャンペーン

国際文化都市神戸を
考える

15

ハートのある
ファッション都市づくりを

□出席者

嶋田 勝次 〈神戸大学工学部助教授〉

笹山 幸俊 〈神戸市都市計画局長〉

★神戸らしい個性ある町づくり

永田 今、現在の町をどういうふうにファッション都市らしくするかという担当が、神戸商工会議所ファッション都市特別委員会のなかの街並分科会なんです。いろんな意味で、もう少し町を美しくしようやないかということが目的です。それには何かキャッチフレーズが要るのやないかということでシンボルロードを提案しました。〃目玉〃商品です。

花時計から神戸駅、新開地まで、それにタテの軸としてトア・ロードを考える。トア・ロードは北野町界隈のショッピングゾーンと結びつける地区だということ考えて行こうじゃないかということですね。

ファッション都市づくりという、ファッション産業面での考え方と、もうひとつは、町をファッション化するということか、町並みを整備するという両方の面をもって

永田良一郎 〈永田良介商店社長

〈神商議ファッション都市づくり特別委員会委員長〉

加藤 末一 〈トア・ロード中央商店街振興組合理事長

菊水 啓輔 〈菊水総本店社長

〈神商議ファッション都市づくり特別委員会委員

いると思うんです。簡単に神戸らしい町づくりだといっておられますけれど、それが薄れて来ているからそれを強調しようというのがひとつの大きな狙いです。

加藤 私どもは高架から生田新道までの区域のことを考えているのですが、元町は刮目できるようなスケールで従前とはうって変わった状態に変貌しました。三宮界隈もそうです。それに比べてトア・ロードはまったく取り残された状態でした。一昨年の暮にトア・ロードに直接門戸をもっている店舗百六十で法人格をもった振興組合を組織しましたが、創立総会では、舗装工事、それに関連して車道と歩道との間のファニチュアをどうするか、さらに、現在目につく夾雑物である電柱、あるいは、個々の店舗の必要に応じて建てられているアーケード、こういうものをどう整理して、どんな格好にもって行くか、こういうことを課題にしました。

創立総会を開催してもう二年も経ちまして、いよいよ

機が熟してまいりました。近く実行案を提出してみなさんの承認を得たいと、ここまで蒸つめてまいりました。

今の私どもの歩道幅は三メートルしかありません。これはこのままでいいのか、あるいは、広ければどんな問題があるか、これを一年ほど前から問題にして来ましたが、やはり、商業地域でありますので歩道の幅を無理に広くしても、今の交通事情が大きく変わらない限りは、直接商売に影響するから、今すぐ歩道幅を広げるのは無理だという結論に達しました。それでは現在のままでどうするか、いわゆる有色歩道にする場合の材料に何を選ぶかということですが、高架から上の地域と調和する状態であってほしい。いろいろと検討してみました。最大公約数として浮かび上がったのが、やはり古いレンガ。ちよつと焼きを良くして磨滅の少ない色合いのやや固い感じの古いレンガを敷きつめてやってみよう。それが、昔の南京街などのイメージにつながりはしないかと考えています。

歩道と車道との間には、昔は街路灯がありました。これが今はない状態ですが、レンガと同じように古い神戸のイメージをもった、しかも、ユニークな感じになるような街路灯をつくってみたいと思っています。

トア・ロードの核になるもの、それとトア・ロードの終点になる神戸外国倶楽部のところに従前のトアホテルのようなもの、終着点になるものがほしいですね。トア・ロードを神戸の「顔」として考えています。

嶋田 これまでの都市づくりは、道路をつくる、緑をふやす、公園を配置する、というような量的な事業だったと思います。美しさ、豊かさをその中に組み込んで行くという質的な方向に向いて来ました。それぞれの地域や商店街で個性ある町づくりの努力が起きているのですね。

★まず、町を愛すること

菊水 神戸の町の魅力は、海であり山であり港であり、

そういったもののなかで、神戸らしい町づくり、ファッショナブルな町といえますか、そういう町づくりをやって行くことが外に對しての顔づくりですね。

神戸らしい町づくりとは、いわゆるクラシカルモダンというものを基調にして、ストリートファニチュアとか植木一本にしてもただ植えるだけじゃなく、どう植えるかという問題でもあろうし、まず、町を愛するという気持ちをもたないといけない。それは、まず、清潔にするということ。特に商店街、ショッピングセンターの商人が町を綺麗にしないとイケない。だから私は、自分の店の前の道路は、自分の店の中と同じだと思ひ、とにかく毎日掃除をしてチリひとつ落ちていない。私は店の者にいうのですが、車道の方から見ると。人は向こうから見ているわけです。側溝のゴミもなくす。そうしないとハートのある町づくりはできない。

行政にいろいろと考えてもらったり、先生にストリートファニチュアをデザインしてつくってもらおうとかいうことも大事だけれど、まず、今、町にあるものを自分たちで綺麗に磨き上げて行くことがないと、いくらいいものが出来てもダメじゃないかと思っています。

町づくりというものは、商売人が自分の店の前を自分の店の中と同じように考えないと出来ない。いくら綺麗なものもできてダメじゃないかと思ひますね。

永田 店の中から見ているだけではダメで、実際、車道から見ても、もう少し綺麗な町づくりを考えてもらわないといけませんね。

菊水 行政に、さあ、木を植えろ、花壇をつくれと、やかましくいって、それを大事にするかといえ、放ったらかしにして、水もやらなければ手入れもしない。そして、行政が悪い、面倒を見ないという。そんな気ままなことをいってもダメですよ。

永田 極端にいえば、花壇の用地だけつくって、木は植えさせればいい。そういう努力は、町の人たちがすべきですよ。全部を行政におんぶするのはいかんですね。

嶋田 確かに町の魅力は、公的にきちんとする部分と個々で整備する部分があると思うんです。その公的なものと個人のものと接点で、都市の景観で一番問題ですね。住宅地だったら堀とか溝とか家の前とか、商店街だったらストリートとショーウィンドウやら入口の前とか。その辺をソフトに大切にして行くべきですね。



嶋田 勝次さん

★美しい町で人を引きつける

笹山 ファッション都市づくりをいいたして数年になりますね。その当時、神戸はファッションをつくる場所なのか、売るところなのか、見せる場所なのか、わかる



笹山 幸俊さん

らなかったのですが、見せる場所も必要なので、それにはそれなりの背景が必要となります。そういうことではないかと調査をしたりして来たのですが。

神戸の建物はちようど建てかえの時期が来ているんですね。戦前の建物も建てかえ、戦後の建物もちようど建てかえ。単純に建てかえて行ったのではありませんのじやないか、同じ建てかえるのなら、もうちよつと勉強をし

て、ファッション都市といわれるのなら、そういう町をつくって行かなければいけない。ミラノはつくるところだったのが、売るところになりつつある。よくいえば見せる場所であってほしいですね。バリなんか、いえは見せる場所だと思えますが、できれば、神戸は三つ揃えてファッション都市にしたいなあということですね。

二、三年前から町づくり助成、お金と指導ですね。そういうことをうちの方で出して、まあ、お金もあるわけですが、それだけではうまく行かないので、もうちよつと他の方法をとうろ。ある程度、条例化してハッキリ位置づけをして、お金を出すものは出す、協力してもらうならハッキリしていただく、こういうようなことで大分時間をかけて議会で景観条例を決めてもらいました。

神戸の町というのは、感覚的に神戸らしいのはこれだというのはないと思いますが、そういう感覚はよその土地の人が案外感じていますね。ハッキリしないけれど何か感じている。ところが、神戸に來られて、今のところ部分的に良いところはありますけれど、全体として、三宮の駅を下りられてもあまりいい感じがしないですね。町を綺麗にするということを最初から考えて、大阪に對抗しようではないかというのがわが方の考え方です。来ていただける人の好みに合うような神戸らしい綺麗な町づくりと、ファッションを一緒にした町をつくって行くというのが現在の考え方なんです。

具体的には差し当たりさわろうとしているのが三宮駅周辺ですね。これは表玄関になりますから、それに見合うような町づくりをやるとうことなんです。それと、北野なりトア・ロードなりフラワーロード、元町、神戸駅へ向かう、そういう軸がありますので、それをひとつのゾーンとしているんなことをやっています。

永田 確かに三宮駅を下りてもファッション都市というイメージはありませんね。それと私鉄の駅、阪急なり阪神なりが綺麗にしてほしいですね。阪急三宮駅、特に阪神元町駅は何とかしてほしいですね。



永田良一郎さん

嶋田 神戸は行政主導型で都市を形造って来たといえるかもしれませんが、都市の骨組は市民参加も含めて、きちんと決断されなければならない。ただこれまでの神戸らしいふんいきづくりにはあまりデザインあふれたものではなかった。神戸は海と山の自然に甘え、フアッショ



加藤末一さん

ン都市づくりは物販からアプローチしているように見える。これからはほんもの指向を明確にしたものを率先して公共のものからつくっていただきたい。庁舎、図書館、駅舎などについては、特に後世に残る都市中心的存在となるものを期待したいですね。それから局長さんのお話



菊水啓輔さん

しのように次々と美しい都市づくり行政の一環として、あらたに都市景観条例がつくられましたね。

★創造して行く部分の強い「景観条例」

笹山 景観条例は、本気で神戸の町をよくしようという市長の意思表示をハッキリ示したということですね。市長が議会でも説明していますように、明日の話とは違います。十年、五十年あるいは百年ぐらいかかるかも知れない。神戸市にとってはそれぐらい大事な法律なんです。憲章的な法律をつくったわけですから。いろんな条例をつくっていますけれど、これほど長期にもの考える条例はおそらくないですね。その積りで、何代もかかってこの町をつくらうということを目的としていますから、市長も力を入れています。この中には、保存するということと、つくるということ、育てるということが主になっています。特に保存するということでは北野で文化財保護法という法律にあります伝統的建造物群というのをまもうと。こういうのがひとつあるわけです。それから美観地区指定があつて、これは居留地とか、あるいは、センター街、元町、栄町ぐらいまで入って来ると思いますが、そういう法律で決められるものがこの条例に直接入り込んでいます。そういうものをつくるための素地をつくる景観形成地域を先に求めようと。これは、ある区域を決めてその中で順次やって行こうというわけで、こういった条例は事務的にはよその都市にはないわけですね。

嶋田 数年前から神戸市の都市計画局の方々と私共の研究室のスタッフと一緒に景観について研究を進めて来ました。その地形や町並みから様々な都市景観があり、それぞれに対応して、保全する景観と創造して行く景観、また遠くから眺める広域的遠望的なものと町の中のちっほけなものデザインを大切にすることまで広汎に展開させないといけない。それらの検討の積み重ねの凝縮された結果が、条例の中に盛り込まれているのではないか

と思っております。

永田 景観条例は京都がやっているような保護条例じゃないんですね。創造して行く部分が強いです。それは、自分たちの町を大事にするということに尽きるんじゃないですか。自分たちが住んで商売をしている町をお互いにもっと大事にして美しくして行こうという気持ちを行政が何らかの形でお手伝いするというぐらいい思っていたらよろしいんでしょう。それが神戸の場合、これまで行政主導が強過ぎた。自分たちで神戸らしい町づくりをして行くという気持ちをみながもって、ハードな面とソフトな面がうまくジョイントできれば素晴らしいものになる。菊水 条例をつくっても本当にやってみようというハードがないといいものができないですね。ファッション都市づくりは市民運動じゃなければいけないですからね。そういう意味では、マスコミが市民に訴えないといけない。マスコミの役割は大きいと思いますよ。

加藤 この条例には規制的な要素、こういう建物を建ててはいけないとか、そういうことはあるんですか。

笹山 ないですね。ただ、規則で、広告塔の高さをここらへんにしてもらうとか、地域によって大分変わるところです。また、地域によって変えようと思っているんです。同じ建てるのならこうしてほしいなあということ

は助言、指導したいと思っています。

お隣りとお隣りは協力しないといけないということは書いてあるんです。これは変わっているんです。普通はやれないことです。

永田 商店街を例にとりましたら、昔は店の二階とかに住んでいましたね。コミュニケーションも自ずからできますね。それが今はみな通いでしよう。そうやって来ると、隣同士がお互いに話し合うことを強制的にでもやっておかないとコミュニケーションがなくなってしまう。

加藤 条例の細かい内容をお聞きしたいですね。

嶋田 この中では、市長の責任だとか、市民の責任だとか、事業者の責任だとかが最初に書いてありまして、そ

のあと、都市景観を形成する地域と都市景観を大事にしようじゃないかという地域を決めまして、その地域はまだハッキリと線引きはされてないと思いますが、その中では基準をつくって、こういうふうなものにしたいだきたいという指導、助言をしようじゃないかということがあがっていたり、北野町だとか、酒倉地域だとか、そういうところは伝統的な建築物群がある。その文化財的な立場から町並み保存をしようじゃないか、また、市街地の中では、目立つ建物だとか、大規模な工作物だとか、そういうものを新しくつくるについては、まず届け出をして下さい、お互いに話し合いをしようじゃないですかということとか、あと、都市の中でも「顔」になるところがありますから、たとえばフラワーロードとかトア・ロードとか元町とか、そういうところについては、美観地区として美しい町づくりを考えよう。また、地域によっては地区整備計画をつくったり、景観マスタープランをつくって、積極的に取り組みたい。そういうことがあがっています。

笹山 区域を決めて届け出て下さいというのに届け出ないときには一応罰金刑が三万円、北野などの伝建地区については五万円、これは法律で一応そうなっています。

嶋田 今度の条例は非常にユニークですね。ユニークなのは憲章的な意味と、文化財保護法という教育委員会サイドのものと、都市計画の美観地区と、そういうものを全部一緒に一本化しようという条例ですからね。

永田 そのかわり内容としては概括的なくくり方しか出来ないということがありますね。

嶋田 やはり都市を全般的にレベルアップして行くことと共に、ひとりひとりが個々に努力すること、それぞれの地域や街路で個性を高めることが平行して行くべきでしょうね、そのために、各商店街や各地区で特色ある計画をまとめられるとありがたいですね。そして自分らの町は自分らでつくるんだという積極的姿勢こそよい町をつくるんでしょうね。

(神戸国際ホテルにて)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市灘合区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三
神戸市生田区三宮町1丁目17-4
センタープラザ東館 8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 萬野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株式会社

取締役社長 小泉 進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F
TEL (078) 851-3191



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上6社の提供によるものです。

■慶びの家具 江戸屋創業96周年記念公募随想

私と家具

入選作発表

田辺 聖子〈作家〉

審査員

足立 巻一〈作家〉

□入選

私と家具

——文机のこと——



山口 毅
神戸市須磨区在住
高校教師

中学三年の時だった。初めて「徒

然草」を勉強したが、その教科書に小さなきし絵がついていた。草葺きの庵の濡れ縁の前に、兼好法師は筆を指にはさみ、文机に頬杖をついて庭のあたりを見やっていた。昔の文筆家はこういう机で、こんなふうにながめながら物を書くのだな、と感心したものだだった。

その頃はまた、夏目漱石にいたく心酔していた時期でもあった。愛読していた全集本には、扉に写真がついていた。その一枚に、袖

かなにかの着物を着た漱石が、原稿用紙の散らばった文机の上に組んだ手をのせて寄りかかっているのがあった。なるほど、現代の作家もこんな机に寄って小説を書くのだなと感心するのと同時に、この文机というものが、文学者のシンボルのように思えてしまったの

だった。

兼好の文机は、両端がやや上に反った経机のような形のものであった。漱石のは、紫檀の座敷テーブルを小ぶりにしたようなものだだった。けれども、中学生や高校生の分際でこんな物の持てるはずもない。いつかひとかどの文筆家になることを夢には見つつ、やがて受験勉強に追われて文机のことなど忘れたまま大学の文学部へ進んだのだった。

下宿の不便を忍んで、東京での学生生活を終えると、今度は山の彼方の高等学校に教師として赴任。二年して月給が三万五千円になったのを機に結婚することとした。そこで、当時は花も恥じらう乙女であった私のかみさんをつれて訪れたのが、永沢町の江戸屋福井。父が、先代の社長と懇意にしてい

た縁で、婚礼家具をそろえに行ったのである。その江戸屋さんの家具展示場の奥の方に、有った有った、小ぢんまりと三つ引き出しのついた文机が。

それは、両端が少し反り上った兼好型で、しかも、紫檀で仕上げたところは漱石式ときているから、フムと一目で気に入ったのはよかったのだが、我が乏しい予算では、食器棚や食卓セットがやっと。親に余分な負担をかけたくなし、まさか婚約者に、私の使う物まで持つて来させるのも嫌だし、その日は、いいないいな、と言いがら帰館。ところが数日を経ずして、姉から、一生に一度のことゆえ豪勢なお祝いをしたいとの申し出があった。これ幸いと一も二もなく例の文机をねだったのであった。

新居といえばロマンチックだが、田舎町の街はずれにある木造平家の二軒長屋で、雨は漏り放題、梁上の君子は天井で運動会を催すという借家住まい。とはいえ、他

の家具と一緒に江戸屋さんが大切に届けてくれた件の文机を濡れ縁の前に置き、筆を指にはさんで頬杖をついて、軒先まで枝を伸ばしている松林を眺めてみると、かなり兼好法師に近い雰囲気であった。ウールの着物で腕を組んで机に寄ってみれば、漱石のムードも遠からじとも思えた。

その学校には、結局六年勤務して神戸の学校へ転勤となった。故郷に帰る喜びに、梱包がおそろそかになったのか、荷をほどこいて見ると、何と文机の角に、何かがあったって、五センチばかりそいだよう

□入選

私と家具

私が、生まれて初めて買った家具、それは水屋であった。事情があつて私は、一人アパートを借り、生活しなければならなくなり、初めての給料をもらうと同時に、その生活は始まった。もう十一年も昔の話である。その当時、私が手にした給料は一万八千円、その水屋が二万五千円、今思えば、この水屋を買う動機は、水屋の持つ温かい生活がほしかったのに違いない。この水屋を見付けるのに、いろいろと歩いた。私は元来、物と用をなすだけでではなく、その物と生活を共にする以上、慈し

な庇がついていた。あなやと思えどおとし、いささかがっかりもしたが、右の引き出しをしめれば、中と左とがスツと出て来るといった造りの良さは変りなく、一か所ぐらい庇があつた方が人生の記録のように思えて、今もそのまま使っている。

ただ、最近はいたずらざかりの子供を三人かかえ、兼好法師の面影も、夏目漱石のムードも慕いようがなく、もっぱら、生活に疲れたオヤジサンの居眠りの支えとなりはてしてしまった文机の姿。まことに遺憾と言わざるを得ない。



主編 菅屋市在住
藤田富子

藤田富子

みを覚える様なものでなければならぬと思う。それを造つた人の心が伝わって来る様な、そんな物が好きである。そこには、失ないかけている心と心の触れ合いの様な温もりがある。これが欲しい!!と見付けた水屋は初給料を叩いても手が出ない高価なものだった。その水屋は自分の住んでいたアパートの近くの家具屋にあった。骨を折って捜した満足感があつた。と言つても手に入れたのではなく、見付けただけの話である。今の様に便利に、月割で家具を買う方法さえ、まだ一般化していない

つたし、十九の小娘には、「お金がありませんので待って下さい」ととは恥かしい気持で言えなかった。七月の賞与が出る迄、売れずにあることを祈るのが精一杯だった。会社の帰り道 毎月、店主や店員に気付かれない様、そおつと覗いては水屋に会うのである。今日も売れずに、そこにある水屋を見ては、一人ほっとしてアパートに帰るのです。西日の入る部屋には家具らしい物と言え、本棚と机兼、食卓用の台が一つ、あの水屋を買ったら、ここに置こうか?、いや窓の近くは日が当たると、たかが六畳一間、買つてもいない水屋の心配を毎日していた。そして、やつと七月を迎えた。小さな会社ゆえ、ボーナス日も決まっていな。社員の噂で今日か、明日かと、ソワソワ、やつと寸志と書いた賞与を手にした。僅かばかりの給料から、取つておいた金と寸志を持つて恋人(水屋さん)に会いにゆくと、店は模様替えを、したらしく、あの水屋は見当らない。もしや売れたのでは?!、そんな不安が頭を掠めた。泥棒に入られて、宝を持ってゆかれた様な、そんな思いで、目を皿の様にして捜してみたが見当らない。ここの一週間ばかり残業で帰りにはもう店は閉っていた。やはり売れたんだ呆然として目頭が熱くなった。希望という

風船を、その向うに針が出ている事も知らず眠らませ続けていた自分に気が付いた。ただボーッと突立っていた。

その時、後ろから肩を叩かれて驚き、振り返ると、いつ来たのか店主が立っていた。「お客さん、あの水屋やったら奥におます！」と私は顔が熱くなるのを感じた。そしてその店主について細長い家具と家具が織りなす路を通って隣の部屋に案内された。そこは倉庫のようであった。その部屋の隅に、あのお馴染みさんの水屋が「来たか？来たか」と言わんばかりにであった。嬉しさの余り、店主に今までの経緯を話すと、その人の良い店主は千五百円も値引きしてくれ

このたびは多数のご応募をいただき有難うございました。審査の結果、佳作四編は下記の方々に決定しました。今後とも家具に寄せられた皆さまのお気持ち大切にしたいと愛される家具づくりに努めたいと存じます。どうぞ末永くよろしくご愛顧の程をお願いいたします。

△江戸屋社長 福井敏子△

佳作入選

た。印紙の貼った領収書を受け取り、とうとう、水屋は私の物になった。私の私の物に……。次の日の夕方、会社の引け時に配達してくれることになったが、その晩は嬉しさの余り眠れず、何度も電気を点けては、その領収書を見つめた。次の日、長い長い一日が終り飛んで帰った。家具屋さんの来るのが待たれて、何度も何度も階段の下を見に行った。暫らくして、家主の小父さんに部屋を聞いている様子に、バタバタ走ってゆくと、家主の小父さんと目が合った。その目には、分、不相応な物を買って！と言っていた。私は店員さんに部屋の南側の壁に入れてもらった。やはりこの部屋には不釣り合

いであつた。でもこの空しい私の心をこの水屋が満してくる様な、この水屋の一つ一つの引き出しに、硝子戸に、誰にも分かつことの出来ない悲しみや喜びを詰めてゆこうと思った。

そして私は結婚し、今も、この水屋は私の心をつめてくれる。初めは硝子戸の中に入っていた単行本が今はお皿に入れ替り、引き出しに入っていた文房具類がゼラチンの粉や、スプーンに変わった今……。水屋が本当の水屋に戻った時、私の心も本当に幸せになったように思える。

水屋よ！これからも私と語って下さい。そして、あの何事にも純粹だった私を思い出させて下さい。

今泉寿美△枚方市△ 南口輝子△枚方市△

中川欣一△高松市△ 吉田稔郎△神戸市△

白装束につつまれた花嫁が行き添う狐たちの祝福をうけて門出を飾る花嫁行列。
この素朴で、ユーモラスなイラストを覚えておいででしょうか？
江戸屋福井が、長い間皆さまに親しまれたマークです——。



江戸屋福井は、創業九十余年。
一本一本原木を吟味し、
木目の語る風情にまで丹精こめて
至芸のいきづく創作家具を
削り続けてまいりました。
これから
なつかしいイラストとともに
伝統に培われた心を
手づくり家具に生かし
続けてまいります——。

信頼にお応えして九十余年



慶びの・家具

■神戸市兵庫区塚本通2丁目1番1号
(永沢町交差点角)

■本店 ☎078・575・3120(代) ■東店 ☎078・576・0054(代)

郵政省弘済会・神戸市教職員共済会・神戸市職員共助会・神戸市交通局共助組合・県警互助会・兵庫県職員互助会ご指定店

営業時間：午前9時～午後7時

毎週金曜日は定休日です

経済ポケット ジャーナル

★KOBÉ産業展

盛況のうちに閉幕
神戸商工会議所百周年記念事業として去る九月十六日、神戸サンボ



あいさつするのは吉川進実行委員長



本の良さを再確認した。また、吉川進同展実行委員長が「百周年事業のトップをきった同展に引き続いて他の行事もぜひ成功を」とあいさつ。百周年記念式典にむけての意気が上った。

★ボーアイ博にむけて

国鉄三ノ宮駅が近代化石油ショック、長期不況のために中断していた国鉄三ノ宮駅の改造計画がようやくまとまった。

五十六年三月に完成予定のこの駅ビルは、国鉄、神戸市、地元十一企業の共同



生まれ変わる国鉄三ノ宮駅付近

出資による「三宮ターミナルビル棟」(小西貢一社長)が地上十一階、地下二階のビルを建設、運営して形をみる

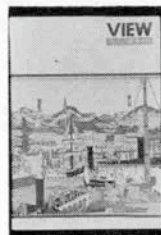
が、キーテナントとして阪急百貨店が進出(地下一、二階)、六階以上は二百五十室、三百人収容のホテルとなる。

またビル東隣は、同時に開通する新交通システム、ポートアイランド線三宮駅が建設されて連絡、さらに五十七年には神戸市営地下鉄ともつながり、三宮が近代的ターミナルに生まれ変わる。

★神戸市がハンドブック

「VIEW」を発行

神戸市では、昭和四十八年のファッショ都市宣言以来、神戸の特色を生かした生活文化産業をファッション産業として、振興を図っているが、このたび、神



「VIEW」

によりまとめられている。ファッショ都市を宣言するだけあって、市当局の意気込みが感じられる小冊子である。問い合わせ：神戸市経済局/電話3318181

★KOBÉオフィスレディ★



三砂 多香子さん(26)

＜勤民主音楽協会神戸サービスセンター勤務＞

六甲山系の花々をつんでは押し花に。押し花が趣味とはとても女の子らしく、彼女の人柄にぴったり。那智わたるのファンだったことから高校では演劇部。今は芝居を観るヒマはないけど、仕事から音楽はたっぷり。ジャズはよくわからないけど、それ以外は何でも好きで聞く。男性は……凄美清演じるあの寅さんみたいに、心底からやさしさのあふれる……そんな人がいいんですって。

＜市立西宮高校卒＞